

# 平成29年度 3年進学講演会

- 1 日時 平成29年5月25日(木) 15:20~16:10
- 2 場所 本校体育館
- 3 講師 駿台予備校名古屋校校舎長 西尾 年史 (にしお としふみ) 氏
- 4 演題 「今こそ、第一志望はゆずれない。」
- 5 概要

駿台予備校京都校校舎長を経験され、現在は名古屋校校舎長の立場から数多くの受験生を指導されてきた経験をもとに、前半は大学受験の意味や大学入試の現状を、後半は2018年度入試に向けての大切なポイントやアドバイスを、生徒の興味や関心を喚起しながらお話しいただいた。

## ◆大学受験の意味◆

現代は人生90年時代と言われ、大学入試を終えた後にも70年近くの人生が待っている。近年受験生の意識は変化してきており、実利志向と安全志向が強く、特にこのエリアでは地元志向も強い。しかし、大学受験には「親離れのチャンス」「自分の力で成功を掴む喜びを知る」「努力することの大切さを知る」「周囲への感謝の気持ちが生まれる」という意味がある。だから、今届く目標で満足し妥協するのではなく、高い目標を設定して努力することが大切である。



## ◆近年の大学入試の現状◆

受験人口の減少に対し、入学定員はほぼ横ばいで、競争倍率は年々下がってきている。国公立大入試においては「文高理低」の継続、センター試験の理系平均点のダウン、難関国立大の後期廃止の拡大のため、志願者数の減少が見られた。一方私立大は学部新設・改組、入試方式の多様化、文系人気の継続、入学定員管理の厳格化に伴う合格者数絞り込みへの不安などから延べ志願者数は増加している。しかし、浪人生の減少という現役生にとってプラス面もあり、難関国立大志望に関して弱気になる必要はない。早い時期に私大3教科に絞ると平均点の影響を受けやすくなるというデメリットもある。

## ◆難関大学を目指す意義◆

大学も企業も「時代が求める人材像」として1「挑戦」2「志」をあげている。社会から若者への要求はどんどん高まっており、「コミュニケーション能力」の向上など「自分を鍛える必要性」がある。将来を見据え、今から努力し、難関大を目指して自分を成長させてほしい。高い目標をもって努力を続ければ、難関大学への合格も見えてくる。

## ◆2018年度入試に向けて◆

求められる力など入試全体に大きな変化はないが、東京大学、京都大学、大阪大学でも推薦入試、特色入試が行われるようになった。また、インターネット出願が拡大してきている。機器やネットワークのトラブルや、クリックのミスも起こりうるのでくれぐれも慎重に早めに対応する必要がある。また、2018年度はセンター試験の日程が過去最速となるが、その分二次試験までの日数が増え、現役生が遅れがちな二次対策に十分に時間をかけることができる。

## ◆センター試験に対応するために◆

- 1 基礎(高校の授業)が大事
- 2 訓練(繰り返し)が大事
- 3 スピードが大事
- 4 気持ちの切り替えが大事
- 5 英語・数学・国語が大事

**最後まであきらめないことが大切!**

**自分の可能性を信じて努力しよう!**

## ◆納得できる大学受験にするために◆

- 1 志望校をゆずらず、安易に妥協しない→志望校に相応しい努力をする
- 2 前期試験で「第一志望校」を受験する!→人生たった一度の機会
- 3 チャンスがある限りチャレンジする→最後の入試まで全力を尽くす
- 4 自立する「覚悟」をもつ→外の世界に自分の手で触れてみる
- 5 センター試験が最初のステップ→バランスの取れた学力を身につける